

おおべこう

大部港（県管理地方港湾）

大部港は小豆島の北岸中央部に位置し、小豆島の北の玄関として重要な役割を果たしています。

本港はその昔、神(じん)功(ぐう)皇后が三韓より帰洛途中、この地で潮待されたとの伝説があり、また、天正年間に豊臣秀吉が大阪城を築いた時、この港からも石材を採取搬送したという由緒を持っています。

本港の背後地域は昔から良質な石材の産地として知られ、港の利用はこの石材関係の輸送を主としています。

また、本港は観光地として名高い寒霞溪の北面の登山口であるほか、小豆島有数の海水浴場として有名な、シルバービーチへのアクセス拠点でもあることから、岡山県日生(ひなせ)港からのフェリーの利用客も多く、小豆島北側の観光の拠点ともなっています。

本港の改修工事は明治3年に防波堤工事に着手されたことに始まり、以後、昭和38年から昭和46年等、数次にわたり施設の拡充が図られ、現在は昭和62年度より着手された新たな物流埠頭が完成されたことにより、良好な自然を多く残す小豆島北面の物流及び観光の拠点として、今後の発展が期待されています。

